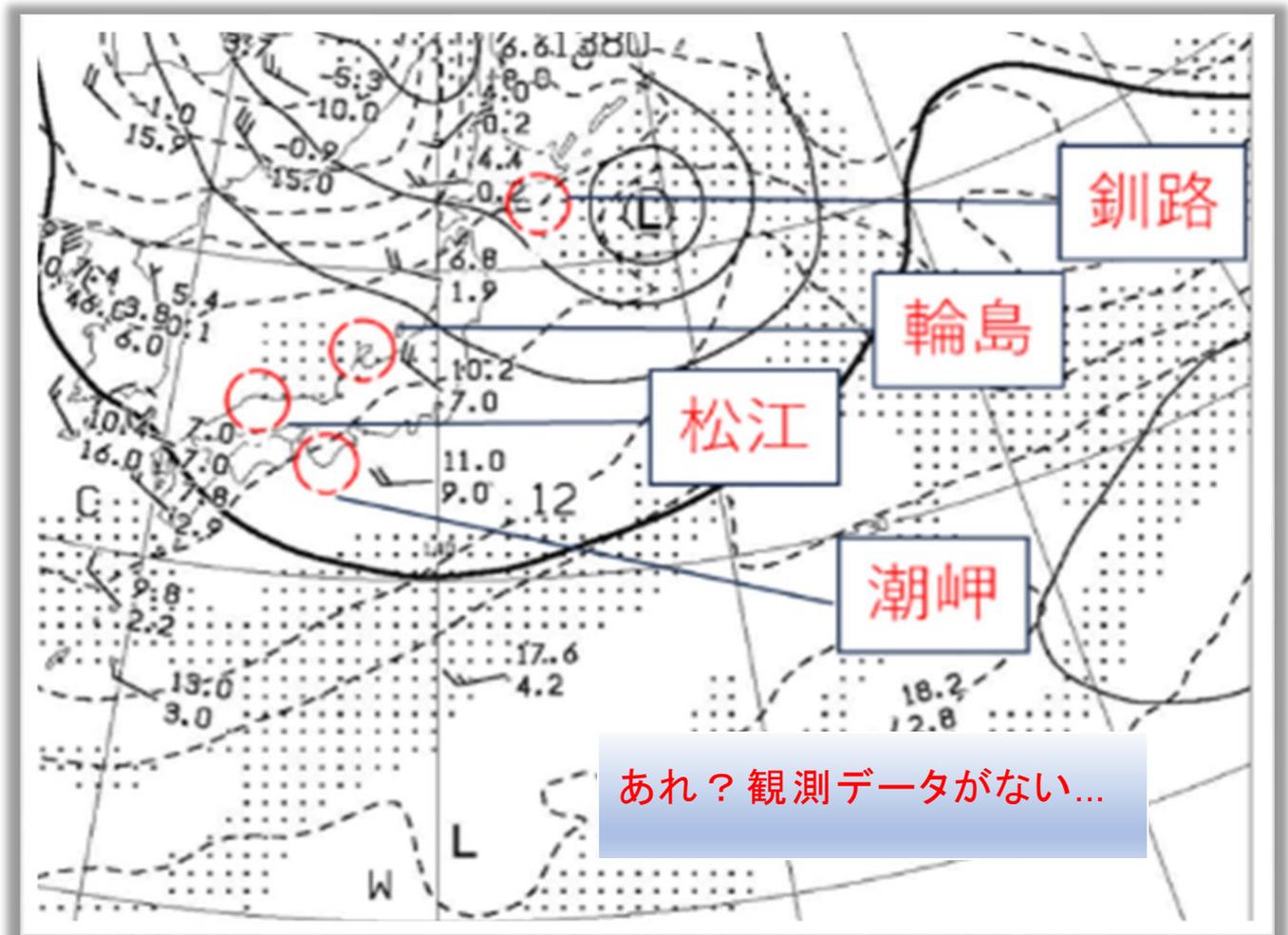


## 高層気象観測値の一部が欠測してる！？



釧路 輪島 松江 潮岬の観測データがない！

日本における気象予報で、極めて重要な役割を果たしているのが「高層気象観測」です。気象庁ではこの高層気象観測によって初期値を取得し、数値予報に活用しています。

現在、日本国内に16ヶ所の高層気象観測施設がありますが、2023年10月時点でそのうちの4ヶ所（釧路・輪島・松江・潮岬）で観測を一部または全て休止しています。これによって、予報精度に少なからず影響を及ぼしている可能性があります。この高層気象観測は航空機の運航にも活用されていることから、これまでの経緯と現状についてご紹介します。

## これまでの経緯①

2022年2月25日20時過ぎ、無人の釧路高層気象観測施設（釧路市益浦）で火災が発生し、21時36分に消防による消火活動で鎮火しました（報道発表より）。翌26日、気象庁は以下の「お知らせ」を発表しました。

**「自動放球装置（以下、ABL）により高層気象観測を実施している釧路高層気象観測点は、障害によりしばらくの間休止します。また、ABLの同型機を用いている3地点（輪島、潮岬、松江）についても、点検が完了するまでの間は高層気象観測を休止します」**<sup>※</sup>

その後、気象庁は上記3地点の点検動向の結果、以下の「お知らせ」を発表しました。

**「2月26日から観測を休止している松江における高層気象観測について、点検が完了したことから、4月25日21時の観測から運用を再開します」**

**「2月26日から観測を休止している輪島における高層気象観測について、点検が完了したことから、5月11日21時の観測から運用を再開します」**

**「2月26日から観測を休止している潮岬における高層気象観測について、点検が完了したことから、5月18日21時の観測から運用を再開します」**

また釧路における観測施設について、気象庁は6月29日に以下の報道発表を行いました。

**「釧路高層気象観測施設（釧路市益浦）では、2月25日に火災が発生したことにより、当面の間、自動放球装置による高層気象観測を休止しております。同地点における高層気象観測は大雨の監視や予測精度向上に大きく貢献するものであるため、7月1日から9月30日までの間、作業員による高層気象観測を実施します」**

この結果、2022年7月から運用休止していた観測施設4ヶ所全てで観測を再開しました。また、同年10月からは釧路を除く3ヶ所で観測が継続することとなりました。

## これまでの経緯②（2023年に再び・・・）

2023年1月13日午前8時過ぎ、観測を再開した3ヶ所のうち、無人の輪島高層気象観測施設（石川県輪島市鳳至町）で火災が発生し、9時00分に鎮火しました。火災原因等については、現在、調査中です。当面、この観測施設における高層気象観測は中止します（報道発表より）。

同日、気象庁は以下の「お知らせ」を発表しました。

**「ABLにより高層気象観測を実施している輪島高層気象観測点は、障害により2023年1月13日9時の観測からしばらくの間休止します。また、同型の装置を**

※ 安全会議 注：その他、12ヶ所はメーカーが異なるため、運用への影響無し

用いている2地点（潮岬、松江）についても、2023年1月13日21時の観測から点検が完了するまでの間は高層気象観測を休止します。観測を再開する場合は、改めてお知らせいたします」

その後、1月23日に目された気象庁からの報道発表は以下の通りです。

「輪島高層気象観測施設で火災が発生したことを受け、同施設における観測を休止しています。火災原因等について調査中であり、引き続き同施設を用いた観測は中止することとしています。日本海側における冬期の観測の重要性を踏まえ、1月23日から2月28日にかけて気象庁職員を派遣し、安全を確保したうえで手作業による高層気象観測を実施することとしましたのでお知らせします」

さらに、6月27日、気象庁は以下の「お知らせ」を発表しました。

「ABLにより高層気象観測を実施する輪島及び潮岬高層気象観測点は、1月13日に輪島観測地点で火災が発生したことを受け、観測を休止しています。輪島及び潮岬における高層気象観測について、6月28日～8月28日にかけて1日1回9時観測のみ、一時的に観測を再開することとしますのでお知らせします。なお、釧路及び松江については引き続き休止します」

## 高層気象観測施設休止の問題点

今般の一連の高層気象観測施設を巡る動向について説明してきましたが、ここで問題点を整理してみます。

- 釧路高層気象観測施設火災では、原因が判明していないにもかかわらず、松江、輪島、潮岬において観測を順次再開した
- 原因究明が行われずに運用を再開した結果、輪島高層気象観測施設でも火災が発生した
- 1日2回（9時、21時）、通年観測しなければならないが、予算の関係から期間限定の一部時間帯の観測となっている
- 数値予報に必要な初期値が得られず、予報精度に影響がある
- 入札制度により、海外メーカーがABLを整備しているが、製造側（Vaisala社）は「自分たちに責任は無い」として、原因究明や補償を拒否している

## 今後の動向

- 輪島高層気象観測施設での火災発生を受けて、原因の究明が出来るまで観測再開は行わない
- 火災の原因調査は、消防が行っているおり、調査は再現実験の段階となっているが、最終報告には時間を要する見込み

●2024 年寒候期は、輪島のみ 1 日 1 回手作業による高層気象観測を委託業者が観測する予定

気象庁は、今回の欠測について「予報精度に問題は無い」と発表していますが、冬季には輪島で、出水期（集中豪雨や台風等で洪水が起きやすい時期）には輪島と潮岬で観測を実施していることから、顕著現象を把握するうえで重要な観測地点であることは明らかです。日々発表される予報においても必要無いはずはなく、適切な予算を確保し、観測を継続することは国民の安全確保という観点で大切であるのは言うまでもありません。

また、日々の航空機運航において高層気象図による解析は必須であり、航空分野における高層気象観測が重要であることは言わずもがなです。

今後、航空安全会議では再発防止策を含めた対応について、気象庁に対して適切な対策を諮るよう要請を行っていく予定です。

今回の情報は、私たち航空安全推進連絡会議（航空安全会議）の加盟労組である「国土交通労働組合」の気象部門から提供されたものです。民間航空で働く者と国家公務員として働く者が、航空安全のため協調して活動しているのが航空安全会議の強みです。こうした幅広い活動にご興味がある方は、所属労組を通じて私たちの活動へご参加ください♪

以上